

但馬の国のヒダリマキガイ



文・鳥越茂 小貫則子 絵・小貫則子

カヤかやの木きには実みがなります

その実みの種たねには

アーモンドのような筋すじがついています

まっすぐついている筋すじが

ひだりまきになっているものがあります

そういうカヤきの木を

とくべつ
特別に

ヒダリマキガヤといいます



むかしむかし
いまから8百年ぐらいまえ
うしわかまるがべんけいとあそんでいたころ
きょうとよりにしにある
たじまのくにののうぎむらで
かやのたねから
めができました

おや

このたねは ふつうではありません
まっすぐついているはずのすじが
ひだりまきです
さあ

かやはかやでも
ヒダリマキガヤのたんじょうです



そこは
ふかふかのつちと くさにおおわれた
こだかいおかでした

ちいさいかやは
おひさまのひかりをたっぷりあびて

てあしをのびのびのばして

そばをながれるおがわから おみずをもらって

すくすくそだっていきます



どんどんおおきくなった
かやは
のうぎのむらの
どこからでもみえました

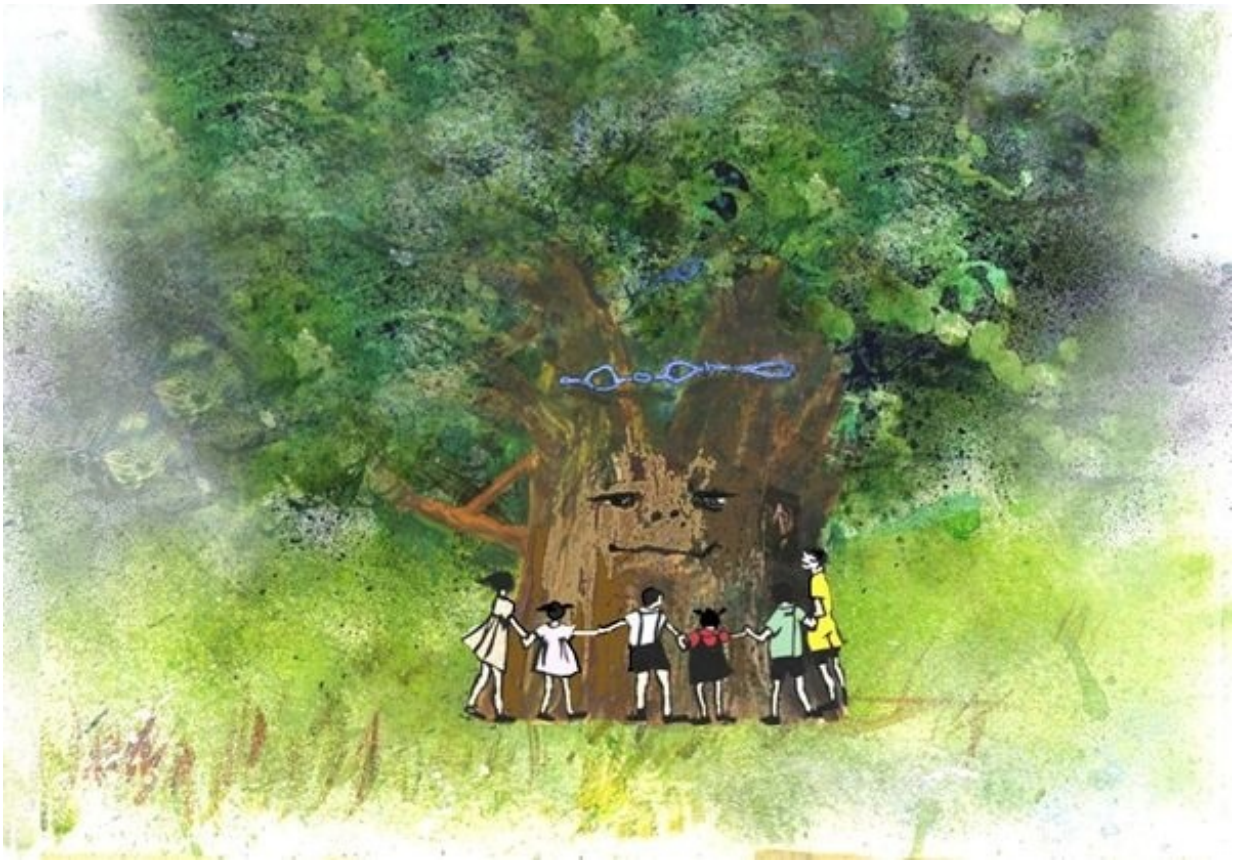
くっきりみえるときは
おてんきがよいしるしです



あきになると
どっさりどっさり
みをつけます

こどもも
どうぶつたちも
かやのみがだいすきです

やいてたべると こうばしくて
おいしいのです



おおきくなったかやは
みきもどんどんふとって

いまでは
十一にんのこどもがてをつないで
やっとまわりをとりかこめるほど
おおきくなりました
せたけは二十六メートルにもなって

にほんで
いちばんおおきなヒダリマキガヤなのです

みんなは
したしみをこめて
かやのきさん と よびました



このかやのてっぺんに
からすのかんたがすんでいます
かんたのおじいさんも ひいひいおじいさんも
ここにすんでいました

でも
かんたは
おうちをしたのほうに おひっこしです

となりむらの
とんびの
ぴーきちがてつだいにきました
「なんだって
きゅうに ひっこしなんかするんだい？」

かんたが わけをせつめいしました
「だっておうちがあったところのまわりには
はっぱがなくなっちゃって
あめはもるし
ひでりのときは
ひよけがなくて
あついんだもん」



かんたは

「おばちゃん、てっぺんがはげてきたよ」
とずけずけといいました

かやのきさんは

「まえはもっとふさふさしていたのに
こんなにはっぱがなくなっちゃって
はげあたまになっちゃったら
おじいちゃんになっちゃうのかしら？」
と、ちょっこまりがおです。

かんたは

「きっとそうだね
ぼうしをかぶらなきゃね」

ぴーきちはおおわらい

「かやのきさんは
おばさんだから
おじいさんにはならないよ」



したのほうにひっこしてくらしはじめたかたは
おもそうなくさりを見つけました

「かやのきさん

体をぐるぐるまいているくさりはなあに？」

かやのきさんには おもそうなくさが

六本もまかれていました

「わたしが われてしまうと しんぱいして

まいてくれたんだけど

これがとってもくるしいの」

「わたしは

としをとったからかしら

くさりもおもくて

くるしいし

いきも くるしいし

のどもかわくし

なにかびょうきになってしまったのかしら？」

かやのきさん

とってもくるしそう

げんきがありません



からすのかんたは

かやのきさんが
びょうきになってしまったのかと
しんぱいになりました

そうだ！
なかよしのぴーきちはものしりだ！

そうだんにいこう

となりむらにとんでいきました



からすのかんたは

かやのきさんが
びょうきになってしまったのかと
しんぱいになりました

そうだ！
なかよしのぴーきちはものしりだ！

そうだんにいこう

となりむらにとんでいきました



ぴーきちは

「にんげんたちも
かやのきさんがびょうきだ
しんぱいだ
なんとかしなくちゃ
って はなしていたよ」
と おしえてくれました

「え？」

「やっぱりかやのきさんはびょうきだったの？」

「ともかく かやのきさんがよわってきているから
きのおいしゃさんがきて
なおしてくれるとっていたよ」

どうやってなおすんだろう？
くさりでまくような
つらいことをするんだろうかと
しんぱいでした



のうざにかえってきたかんだが

「きのおいしゃさんがきて
かやのきさんを
なおしてくれるとってたよ」
というと

かやのきさんは
どんなことをされるのか
いたいことをされるのか

きがきではありません



どんなおいしゃさんがきてくれるのか
ピーちゃんにきいてね
とたのむのでした

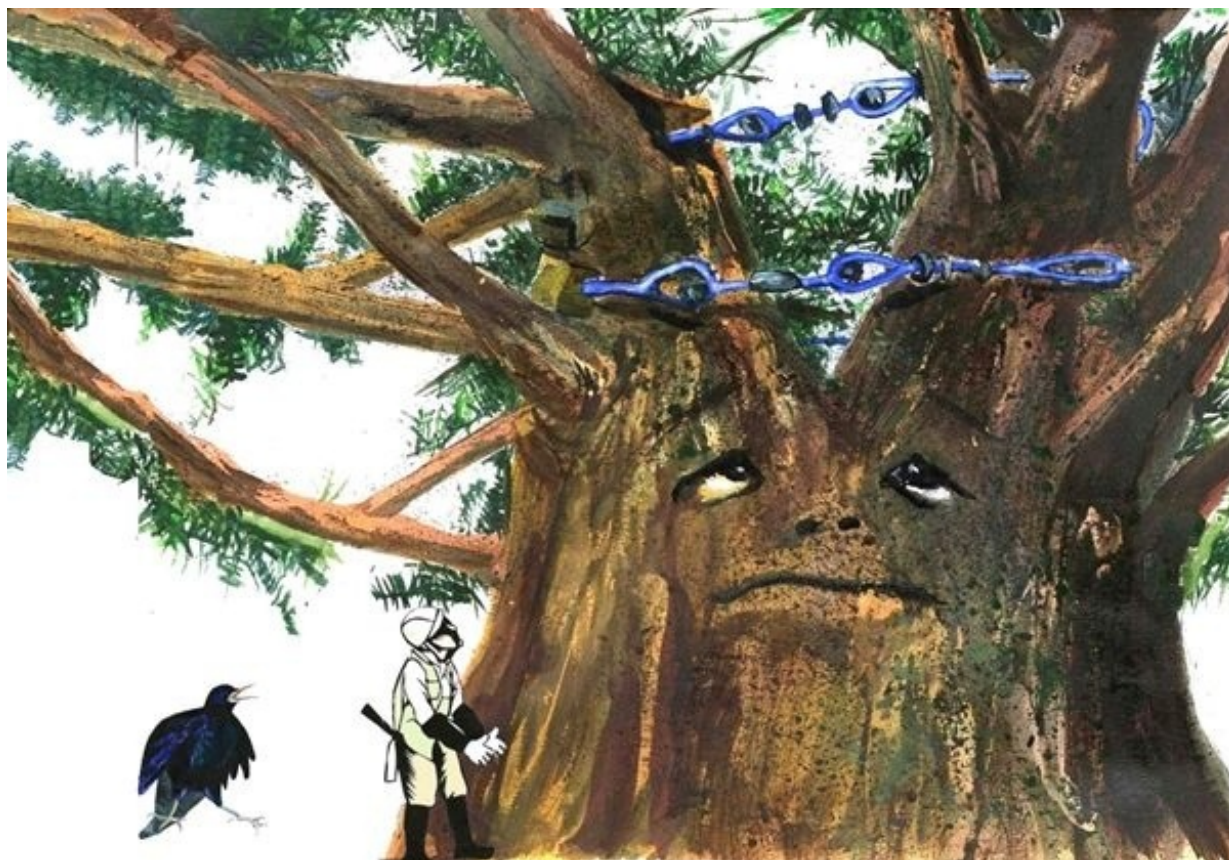
「きのおいしゃさんは
じゅもくいというのだそうですよ
かたはおしえてあげましたよ

「じゅ～～！ってやくの!？」

「ちがうちがう じゅもくい！」

「じゅーにんもくるの？」

かやのきさんは
しんぱいでおろおろしてます
「じゅもくって きのことだってよ
きを せんもんになおしてくれるおいしゃさんだから
じゅもくい というのですって」
それなら きのきもちも
つらさもわかってくれるでしょうね



しばらくすると
そのじゅもくいさんがやってきました
ヘルメットをかぶって
さぎょうぎをきて
こうじをするひとのようです
ちゅうしゃはもっていませんでした
ちゅうしゃはしないようです
きのまわりをなんかいもなんかいもしらべました
かたはあとをついて
「ちゃんとなおしてね
ちゃんとなおしてね」
たのむのですが
じゅもくいさんは
おへんじはしてくれないで
むずかしいかおをして
しらべています

そして
くさりは3ぼんははずしてだいじょうぶです
と
はずしてくれたのです



おもいおもいくさりをはずすのは
じゅもくいさんたちも
いのちがけでした

うっかりおとしたりしたら
だいじこになってしまいますからね

「ふ〜〜〜」

おもいくさりをはずしてもらって
かやのきさんは
ひさしぶりにのびをするきぶんでした



かやのきさんは
ねっこがくるしいので
みてほしいとたのみました

おくちをふさがれているようで
いきができなくて
つらいのだ
と
いいました

じゅもくいさんたちは
ねっこをきずつけないように

そっとつちをほりはじめると



かやのきさんは
ねっこがくるしいので
みてほしいとたのみました

おくちをふさがれているようで
いきができなくて
つらいのだ
と
いいました

じゅもくいさんたちは
ねっこをきずつけないように

そっとつちをほりはじめると



うさぎがきていうのです

「このつちはかたくてほれないのです」

てん
もきていました

「ここには すがほれないんだよ」

きつねもきて

「ここは ほんとうに かたくて
すをつくれなないんだよ」

とってもかたい つちでした



じゅもくいさんが ほってもほっても
あるはずのねっこがでてきません
これにはびっくりです
「かやのきさんのねっこは どこにいつてしまったんだろう？」

こまります

じぶんのあしもとが どうなっているのか じぶんではわかりません
さらにほってしらべていくと くさって しんだねっこがたくさんでてきました

これでは かやのきさんはいきもできないし みずものめません

ねっこのまわりのつちがかためられて
くうきのおりみちがなくなって いきができなくなっていたのです

いったいどうやって
かやのきさんは
生きてきたのでしょうか
だいたい きは
しげっているえだよりも
ひろくねっこをはっているのでしょうか？



むかしとくらべて

おがわもとおくにいてしまいました
つちに たくわえられるおみずも たりないのです
ねっこが たくさんのびていなければ
かやのきさんの いのちがあぶない

かんたが ホースをかついでやってきました

「ぼくがたすけてあげる
おみずを じゃ〜〜っとまいてあげる」

じゅもくいさんが
「ホースでじゃ〜〜とおみずをまいてもだめなのです

かやのきさんがじぶんのちからで
ねっこをゆっくりのぼして
おみずをのめるようにしないと
ちからがつかないのです」

とおしえてくれました



いきのこっている ねっこを
ようやくみつけました

それをだいにのぼして
ひろげていくさくせんが はじまりました

つちをほられて

ねっこをいじられて

かやのきさんはとてもつかれました



それでも

おがわをひいてもらったので
がんばって そちらのほうに
ねっこをのぼしていきました

じゅもくいさんたちは
ねっこが

そのおがわのうえをまたいで
のびていけるために
はしをつくります

ねっこははしをわたるのです

そとつちをふんわりかぶせたり
かやのきさんがねっこをのぼしていくときに
つちのうえにひとがのらないようにして
ねっこがのびてくるのをたすけました

こどもたちも

ねっこのうえにはのりません



そして

ゆっくりゆっくりねっこのびていきます

がんばれがんばれ

かやのきさんはげんきになっていきました

3ねんがすぎて

またいっぱいみをつけるようになりました。

かたもうれしそうです。

「かやのきさん、よかったね。げんきになれて」

かやのきさんは

きずついたのとおなじくらい

ながいじかんをかけて

ゆっくりゆっくり

からだをなおしていきます

みなさんも

だいにみまもってくださいね